

ユーザーズ・マニュアル

AUDIOFUSE 8 PRE
ADVANCED AUDIO INTERFACE

ARTURIA®
YOUR EXPERIENCE • YOUR SOUND

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frederic BRUN	Nicolas DUBOIS	Jean-Gabriel SCHOENHENZ
Philippe CAVENEL	Kévin MOLCARD	

開発

Claire BOUVET	Thierry HAUSER	Pierre PFISTER
Pierre DEMOUVEAUX	Jérôme LAURENT	Léonard SAUGET

生産技術

Aurore BAUD	Nadine LANTHEAUME	Luc WALRAWENS
Lionel FERRAGUT	Valentin LEPETIT	

デザイン

Martin DUTASTA	Axel HARTMANN	Morgan PERRIER
----------------	---------------	----------------

テストイング

Arnaud BARBIER	Matthieu COUROUBLE	Florian MARIN	Benjamin RENARD
----------------	--------------------	---------------	-----------------

ベータ・テストイング

Marco CORREIA	Jay JANSSEN	Terry MARSDEN
Ben EGGEHORN	Randall LEE	Ken Flux PIERCE
Boele GERKES	Luca LEFEVRE	Chuck ZWICKY

マニュアル

Randall LEE (author)	Vincent LE HEN	Jose RENDON	Jack VAN
Minoru KOIKE	Charlotte METAIS	Holger STEINBRINK	

© ARTURIA SA – 2019 – All rights reserved.
26 avenue Jean Kuntzmann
38330 Montbonnot-Saint-Martin
FRANCE
<http://www.arturia.com>

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があり、それについてArturiaは何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部をArturia S.A.の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者の商標または登録商標です。

Product version: 1.0.0

Revision date: 19 July 2019

AudioFuse 8Preをお買い上げいただきありがとうございます！

AudioFuse 8Preは、Arturiaオーディオインターフェイス・ファミリー製品の重要な1モデルで、オリジナルAudioFuseと同じサウンドクオリティを誇りつつ、より強力な接続性を追加し、単体でも既存のセットアップのチャンネル拡張用でも使用できます。

技術的な内容になりますが、Arturia独自のDiscretePRO®テクノロジーの詳細は[こちら](#)をご覧ください。

本マニュアルはAudioFuse 8Preの各種機能や操作方法等についてご紹介します。AudioFuse 8Preで使用可能なソフトウェアの**AudioFuse Control Center**の使用法等の詳細につきましては、専用のマニュアルがありますのでそちらをご参照ください。

安全にお使いいただくために

注意事項 (以下の通りですが、これらに限定されるというわけではありません) :

1. 本マニュアルをよくお読みになり、ご理解いただいた上でご使用ください。
2. 本機の使用方法に従ってご使用ください。
3. 本機を清掃する場合は、最初に電源アダプターやUSBケーブルなどすべてのケーブル類を取り外してください。また、清掃は乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやアルコール、アセトン、テレピン油など有機溶剤を含むものは使用しないでください。液体クリーナーやスプレー洗剤、濡れた布も使用しないでください。
4. 本機を浴室やキッチンシンク、プールなど水がある場所の近くや湿気が多い場所で使用しないでください。
5. 本機を落下する恐れのあるような不安定な場所に設置しないでください。
6. 本機の上に重量物を置かないでください。また、本機を過熱から保護する開口部や通気孔を塞がないでください。本機を暖房等の熱源の近くや風通しの悪い場所に設置しないでください。
7. 本機を開けたり、本体内に異物を入れないでください。火災や感電の原因になることがあります。
8. 本機に液体をこぼさないでください。
9. 修理の際は必ず正規のサービス・センターにご相談ください。お客様ご自身で本体を開けたりされますと、保証対象外となります。また、不正な改造や調整は感電を起こしたり、故障の原因になります。
10. 雷の発生時には本機を使用しないでください。感電の原因になることがあります。
11. 本機を直射日光下に設置したり使用しないでください。
12. ガス漏れが発生している付近で本機を使用しないでください。
13. Arturiaおよび正規代理店は、本機の不適当な操作等が原因による破損やデータ損失につきまして責任を負いません。

仕様変更について :

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものです。改良等のためにハードウェアの仕様を予告なく変更することがあります。

重要 :

本機は、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時間使用しないでください。難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

保証に関するご注意 :

本製品の機能に関する知識不足が原因 (設計時の想定外の使用法) による修理費は、保証の対象外となり、有償となりますのでご注意ください。Arturiaでは、マニュアルをお読みになることもオーナーの責任と捉えております。マニュアルをよくお読みになり、機能や使用方法などを十分にご理解いただいた上で、修理をご依頼される際には、事前にお買い上げの販売店にご相談ください。

はじめに

この度はArturia AudioFuse 8Preをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機は、幅広いシチュエーションに対応でき、コストパフォーマンスの高いオーディオインターフェイスの1つです。本機は、デスクトップでもラックにマウントした状態でも使用できますので、これから音楽制作環境を構築しようとしておられる方も、既存の制作環境をさらに拡張しようという方も、その中心となる機材の1つとなります。

先行機種とのAudioFuseと同様、AudioFuse 8Preも各種パーツは最高品質のものを採用しており、極めて高い音質でレコーディングを行えます。また、使用シーンを選ばず、常に最高の柔軟性と高音質を確保するよう設計/製造しております：

- "1ボタン/1機能"によるダイレクト操作
- 定評のあるDiscretePRO®プリアンプによる最高のオーディオクオリティ
- プラグアンドプレイ (macOS)、1度のドライバーインストールで動作可能 (Windows)
- USB-C接続：低レイテンシー、広大なバンド幅、USB2.0と互換 (Windowsシステムの場合はArturiaドライバーが必要となります)

本マニュアルは、AudioFuse 8Preの機能をフルに引き出す際にお役に立ちます。また、AudioFuseシリーズの各種設定等が行える強力なソフトウェアのAudioFuse Control Center (AFCC) につきましても時折ご紹介します。

AudioFuse 8Preのフロントパネルの設定等は、AFCCで行うこともできます。またAFCCでは、本機のフロントパネルからは操作できないパラメーターやルーティングオプションの設定も可能です。

AFCCはArturiaサポートサイトの[Download & Manualsページ](#)からダウンロードできます。ページの左部分から"AudioFuse Control Center"のリンクを選択し、お使いのコンピュータに合ったバージョンをダウンロードしてください。

Arturiaのハードウェアやソフトウェア製品情報のチェックに、www.arturia.comウェブサイトをご活用ください。ミュージシャンにとって不可欠で刺激的なツールが豊富に揃っています。日本語でのArturia製品情報はarturia.jpに掲載しております。こちらも併せてご利用ください。

より豊かな音楽ライフを

The Arturia team

もくじ

1. AudioFuse 8Preへようこそ！	3
2. オーバービュー	5
2.1. フロントパネル	5
2.1.1. チャンネル1&2	5
2.1.2. チャンネル3-8	7
2.1.3. アウトプット部の各コントロール	8
2.1.4. CLOCK, SYNC, 電源, MODEボタン	10
2.2. リアパネル	12
2.2.1. ADAT, ワードクロック, USB, 電源	12
2.2.2. アウトプットの各コネクタ	15
2.2.3. インプットチャンネル1-2	16
2.2.4. インプットチャンネル3-8	17
2.2.5. バーチャルループバックチャンネル17-18	17
3. レジストレーション	18
3.1. パッケージ内容	18
3.1.1. DiscretePRO®測定証明書	18
3.1.2. AudioFuse 8Preのレジストレーション (製品登録)	18
3.1.3. AudioFuse Creative Suite	19
3.1.4. AudioFuse Control Center	19
4. AudioFuse 8Preをセッティングする	20
4.1. ラックイヤーの取り付け	20
4.1.1. ラックマウント用の取り付け	20
4.1.2. テーブルトップ用の取り付け	21
4.2. コンピュータの設定	22
4.2.1. macOS	22
4.2.2. Windows	22
5. USBとADATモード	24
5.1. 各モードの簡単な対比	24
5.1.1. ADATモードでは	24
5.1.2. USBモードでは	24
5.2. モードの切り替え方	25
5.3. 各モードとクロックレートのオーディオルーティング	25
5.3.1. チャンネルルーティング (ADATモード)	25
5.3.2. チャンネルルーティング (USBモード)	26
5.4. その他の情報	27
5.4.1. コンピュータと併用している場合	27
5.4.2. コンピュータと併用していない場合	27
5.5. 2台のAudioFuse 8Preをチェーン接続にする	27
5.5.1. メソッド1：ダイレクトUSB接続	27
5.5.2. メソッド2：片方だけUSB接続	28
5.5.3. USBチャンネルのアサイン	28
6. AudioFuse 8Preを使う	29
6.1. 接続の概要	29
6.2. USBとADATモードについて	29
6.3. 接続例	30
6.3.1. システム例1：バンドのレコーディング	30
6.3.2. システム例2：既存のシステム拡張	31
6.3.3. システム例3：ドラムのレコーディング	32
6.3.4. システム例4：USBケーブル1本で16ch入力	33
6.3.5. システム例5：2本のUSBケーブルで16ch入力	34
7. 同期	35
7.1. USBモードでのシンク	35
7.1.1. マスターの場合 (SYNC = INT)	35
7.1.2. スレーブの場合	36
7.2. ADATモードでのシンク	36
7.2.1. マスタークロックの場合 (SYNC = INT)	35
7.2.2. スレーブ機器の場合	36
7.3. ワードクロックの設定	37
7.3.1. 2台の同期	37
7.3.2. 3台の同期	37

7.3.3. ワードクロックのまとめ	38
8. よくある質問	39
9. 仕様.....	40
9.1. 動作環境	40
9.2. オーディオ仕様	40
9.3. 同期仕様	42
9.4. オーディオレベルとメーターLEDの関係	42
10. ソフトウェア・ライセンス契約	43
11. 規制関連情報	45

1. AUDIOFUSE 8PREへようこそ！

Arturiaには、その革新性や強力な機能、品質の高さ、そしてコストパフォーマンスの良さで定評あるハードウェアやソフトウェア製品を開発してきた長い歴史があります。

Arturia初のUSBオーディオインターフェイスは、2017年発売のAudioFuseでした。同機は、かつてない高音質マイクプリアンプのDiscretePRO®プリアンプをはじめ、高精度のアナログ回路や高品質のAKMプレミアムA/Dコンバーターを搭載し、+24dBuのプロオーディオレベルにも対応しています。高い設計技術により、これらのコンポーネントのすべてをコンパクトなケースに収め、競合機種を遥かに凌ぐ高いコストパフォーマンスを実現しました。

この伝統はプロクオリティのUSBオーディオインターフェイス・シリーズの第2弾であるAudioFuse 8Preにも生きています。本機は、8系統のDiscretePRO®プリアンプを1Uラックサイズに搭載し、8系統の高音質アナログ出力、8チャンネルのADATオーディオ入出力、フレキシブルなクロック設定、強固な後期機能、1ボタン/1機能の使いやすいユーザーインターフェイスを採用し、複雑そのもののメニュー階層による操作体系を一掃しました。

また、90度に回転して取り付けてゴム足を取り付ければデスクトップにも設置できるユニークなラックイヤーも使いやすさのポイントの1つでしょう。さらに、2台のAudioFuse 8Preをリンクさせると、コンピュータ側からは2台のデバイスではなく、1台の16チャンネルデバイスとして使用することもできます。

また、AudioFuse Control Center (AFCC) ソフトウェアもAudioFuse 8Preなどの新機種対応でその機能を拡張しています。AFCCはArturiaサポートサイトの[Downloads & Manualsページ](#)からダウンロードできますのでぜひ活用ください。

AudioFuse 8Preがあなたの音楽制作に欠かせない機材になれば、これほど嬉しいことはありません。

AudioFuse 8Preの主な特長

- 16入力チャンネル / 20出力チャンネル
- 8系統のDiscretePRO®プリアンプを搭載
- 全マイクプリアンプに48Vファンタム電源を独立して使用可能
- すべての入力端子にXLRコンボジャックを装備
- チャンネル1と2はギターやベースが直接接続できるHi-Z対応
- 1&2 チャンネル1と2にはバランス接続のインサート接続端子を個別に装備
- チャンネル1と2はフロントにもオートスイッチ式入力端子を装備
- 各アナログ入力チャンネルにLEDレベルメーターを装備
- アナログ入力チャンネルはゲイン、位相反転、パッドを個別に設定可能
- 内蔵オーディオループバック機能 (AudioFuse Control Centerで設定可能)
- 8系統のバランス出力 (TRS)
- スピーカー出力 (バランス接続、TRS)
- ステレオヘッドフォン出力 (6.35/3.5mm TRS、最高600Ωのヘッドフォンに対応)
- モニターセクションではスピーカーとヘッドフォンの出力レベルを個別に調節可能
- 超低レイテンシーの内蔵ミキサーによるダイレクトモニタリング
- デュアルADAT端子で96kHzの8チャンネル入出力が可能
- ワードクロック入力/出力端子 (BNC) を装備
- 外部の独立試験機関によるDiscretePRO®の測定証明書を添付
- PC, macOS, Linux互換のUSB-Cインターフェイスを採用 (USB 2.0と互換)
- 堅牢な金属製シャーシを採用 (1Uラックマウントサイズ)
- ラックイヤーを90度回転させてデスクトップ使用にも対応可能
- [AudioFuse](#)など他のオーディオインターフェイスと組み合わせてさらに自由度の高い使用が可能

2. オーバービュー

2.1. フロントパネル

AudioFuseシリーズ全体の設計思想である「使いやすさ」は、AudioFuse 8Preも引き継いでいます。本機の機能のほぼすべては見たままです。つまり、メニュー階層や別ページの類はありません。各ボタンが担う機能はそれぞれ1つです。ボタンに書いてある機能名が必要なものでしたら、押せばその通りに動作します。いたってシンプルです。



2.1.1. チャンネル1&2



よくあるシチュエーションですが、あなたのスタジオ機材がすべて接続済みでセットアップされた状態で、誰かが新しい機材を持ってきて、それをすぐにチェックしなくてはならないとします。そんな時はどうしますか？どこかのケーブルを外して空きチャンネルを作って、外したケーブルはそのままダラっとさせておきますか？ワークフローを混乱させずに新しいマイクやギター、シンセをチェックする段取りとしては面倒ですし、スマートで質の高い方法とは言えませんよね？

そうです、できません。そこでチャンネル1と2のコネクタはフロントパネルにも装備しました。フロントからの接続でも信号はリアパネルからの接続と同様、DiscretePRO®プリアンプ、インサート、各種コントロールが使えますし、さらにフロントパネル側にはINSTボタンもあり、幅広いソースに対応できます。これで何でも接続でき、突発的な状況にもスマートに対応できます。

i 注：チャンネル1と2は自動スイッチ回路になっていますのでフロントパネルのコネクタに接続した場合は、リアパネルの同じチャンネルのコネクタが接続されていても、フロント側が優先されます。また、フロントに何も接続していない場合は、自動的にリアパネル側の信号を入力します。

2.1.1.1. チャンネル1と2のXLRコンボ入力 (フロントパネル)

このコンボコネクタはXLRまたは6.35mmフォンプラグ、つまりマイクまたは楽器を接続できます。接続後、ボタンとゲインノブで適正な入力レベルを調節できます。

リアパネルのチャンネル1と2にケーブルが接続してある状態で、フロントパネルに何かを接続した場合、自動的にフロント側の接続が入力されます。フロント側の接続を取り外すと、リア側からの信号が有効になります。

2.1.1.2. チャンネルの各コントロール

ステータスLED

チャンネル1と2にはゲインノブの上のフロントパネル最上部に3つのLEDがあり、接続したソースの種類 (とXLRまたは6.35mm) を表示します。接続したソースによっては、INSTボタンで通常のラインインピーダンスまたは楽器用インピーダンス (ハイインピーダンス) に切り替える必要があります。

ゲインノブ

このノブで最適な入力レベルになるように調節します。最適レベルは入力信号のピーク時に-10から-6dBのLEDが点灯するレベルです。CLIP LEDが点灯する場合は、不要な歪みを防ぐため入力ゲインを下げる必要があります。

入力信号によっては、パッドを設定する必要がある場合もあります。CLIP LEDとPADボタンにつきましては後ほどご紹介します。



♪: ゲインノブはアナログコントロールですのでノブの動きをコンピュータと通信しません。同様に、AudioFuse Control Centerとも通信しません。

48Vボタン

マイクの中には"ファンタム電源"を必要とするものもあります。その場合は48Vボタンを押します。ボタンの点灯時はマイクにファンタム電源が供給されています。

PADボタン

PADボタンは接続したジャックにより、2または3段階で動作します。

- **MIC**は3段階：PADオフ (ボタン消灯)、PADオン (白く点灯)、ブースト (赤く点灯)
- **LINE/INST**は2段階：PADオフ (消灯)、PADオン (白く点灯)

パッドの動作ゲインは各設定により異なります。詳細は[オーディオ仕様 \[p.40\]](#)をご覧ください。

以下の表は、PADボタンの動作モードと操作法をまとめたものです。

インプット	一度押し	長押し
Mic	オン (消灯) とオン (白点灯) の切り替え	ブースト (赤点灯)
Line/Inst	オン (消灯) とオン (白点灯) の切り替え	—



♪: ジャックからケーブルを取り外すとAudioFuse 8PreがPAD設定を記憶し、次回同種のケーブルを接続した時に同じ設定を再現します。

INST (Instrument) ボタン

このボタンはチャンネル1と2のみにあり、他のチャンネル (3-8) にはありません。

INSTボタンは、そのチャンネルのインピーダンスをHi-Z (ハイインピーダンス) に切り替えます。この機能は、エレキギターやエレキベース、マンドリンやバイオリンなどの弦楽器、リード方式やタイン方式のエレクトリックピアノなど、パッシブピックアップを使用している楽器を接続するためのもので、そうした楽器を直接接続する場合に、INSTボタンを押してオンにします。

i : プリアンプを内蔵している楽器や、パッシブピックアップの楽器でもエフェクターを通しては、INSTボタンを使う必要がない場合もあります。

PHASEボタン

このボタンは入力信号の位相を反転させる時に使用します。ギターアンプの音をマイク2本で録音する場合などに便利です。

例えば、ギターアンプの音をマイク2本で録る時に、1本をスピーカーの近くに当て、もう1本でアンプから離れたところでルームアンビエンスを狙うとします。この時、特定の周波数帯域が2本のマイクの距離によって強調されすぎてしまう場合、PHASEボタンを使ってみましょう。片方のマイクからの信号の位相を反転させることにより、問題を起こしている帯域のレベルが下がることがあります（そうならない場合は、ルームマイクの位置を少し変えてみるという方法もあります）。

レベルメーター

LEDレベルメーターの機能は簡潔です：入力信号のレベルが低すぎるのか、高すぎるのか、あるいは適切なのかを表示します。細かいところで1つ重要なのは、信号レベルが-1dBFSに達するとCLIPが点灯します。この場合は入力ゲインを下げてください。ほとんどの場合、入力信号のピーク時で-10か-6dBのLEDが点灯する状態で適正レベルになります。このレベルに設定しておけば、不要な歪みを防げます。

2.1.2. チャンネル 3-8



以下の例外を除き、チャンネル3-8の機能はチャンネル1と2 [p.5]と同じです：

- 入力ソースのLEDは2つのみ (MicとLine)
- チャンネル3-8にはINSTボタンはありません
- 接続端子はすべてリアパネルにあります
- チャンネル3-8にはインサート端子がありません

2.1.3. アウトプット部の各コントロール



#	コントロール名
1	スピーカー出力のレベル
2	ヘッドフォン出力のレベル
3	MONOボタン
4	モニター選択ボタン

i ノブ: アウトプット部の各ノブはアナログコントロールですので、ノブの向きなどの動きをコンピュータと通信しません。そのため、AudioFuse 8Pre本体のスピーカーノブを回しても、AudioFuse Control Centerのマスターフェーダーは動きません。一方、MONOボタンとCUE/MAIN 1-2ボタンは本体上の操作に応じてAFCC上でも変化します。

2.1.3.1. スピーカー出力レベル

このノブでモニタースピーカーに送るミックス全体の音量を調節します。出力するソースは、CUE/MAIN 1-2ボタンでメイン出力またはキューミックスの切り替えができます。

キューミックスは超低レイテンシーでモニターでき、ミックスバランスはAudioFuse Control Centerで行います。デフォルト設定では、すべてのアナログ入力にユニティゲインに設定され、パンニングはセンターです。メイン1-2出力のパンニングは左右にハードパンニング (ステレオ) に設定されています。

キューミックスのメリットは、コントロールルームでのミックスとは別のミックスバランスでレコーディングブース内のミュージシャンに信号を送ることができる点です。これにより、プロデューサー/エンジニアは全体ミックスをモニターでき、ブース内のミュージシャンは演奏しやすいバランスでモニターすることができます。

2.1.3.2. ヘッドフォン出力レベル

このノブでヘッドフォン出力の音量を調節します。2つのヘッドフォンジャックは同じミックス、レベルで出力されます。デフォルト設定では、CUE/MAIN 1-2ボタンを切り替えた時にスピーカー出力と同レベルになるように設定されていますが、これはAFCCで設定変更できます。

2.1.3.3. MONOボタン

MONOボタンを時々オンにしてミックスをモノラルでモニターすることで、ベースが出過ぎていたり、位相の干渉が起きていたりなどミックスに問題がないかチェックできます。

また、リスナーのリスニング環境をシミュレートするのにもMONOボタンは便利です。人々は音楽を小さなモノスピーカーで聴いている場合もあり、MONOボタンでその状態を一時的に作ることができます。また、ギタートラックにステレオエフェクトを多用している場合、モノラルにするとそのエフェクトがほぼ完全に聴こえなくなってしまうこともあります。そのような問題を発見するためにも、MONOボタンは便利です。

2.1.3.4. モニタリングソースセクター

CUE/MAIN 1-2ボタンでスピーカーとヘッドフォンに送るソースを選択します。MAIN 1-2でモニターする信号は、AudioFuse 8Preのモードによって次のように変わります：

- **USBモード**：USB出力1と2からのオーディオ (DAWからのステレオミックスなど) または、
- **ADATモード**：ADATインプット1と2からのオーディオ

キューミックスでは、AudioFuse Control Centerのゼロレイテンシー・モニタリングミキサーで入力オーディオソースを自由に組み合わせてミックスできます。



♪: ヘッドフォン出力とスピーカー出力は同じミックスになりますが、これはAFCCで設定変更できます。

2.1.4. CLOCK, SYNC, 電源, MODEボタン



2.1.4.1. クロックセレクターボタン

CLOCKボタンの機能は、AudioFuse 8 Preのモードによって次のように変わります：[ADATモード](#)または[USBモード](#) [p.24]

ADATモード

AudioFuse 8PreがADATモードの場合で、内部クロックを使用している (SYNC = INT) 場合、クロックレートはフロントパネルでの操作でのみ変更できます。この場合、CLOCKボタンを押すたびに選択したクロックレートのLEDが点灯します。

特定の状況下では、CLOCKボタンを押してから実際にクロックレートが変わるまで約2秒かかる場合があります。詳しくは[同期チャプター](#) [p.35]をご覧ください。

SYNCの設定がADATまたはWORDの場合、クロックレートは外部機器で変更します (AudioFuse 8Preでは変更できません)。この場合、クロックレートのLEDは受信しているレートを表示し、LOCK LED点灯時はクロックのマスターになっている機器とAudioFuse 8Preが同期していることを表示します。

USBモード

AudioFuse 8Preがクロックのマスター (内部クロック) で、USBモードの場合：

1. macOSのコンピュータと接続している場合、クロックサンプリングレートの変更はAudio MIDI設定アプリケーション (ユーティリティ) で行います。
2. Windows PCと接続している場合、クロックレートの変更はAFCCまたはお使いのオーディオアプリケーション (変更可能な場合) で行います。

フロントパネルでの操作では変更できません。

AudioFuse 8Preが外部機器のスレーブになっている場合 (SYNC = ADATまたはWORD)、クロックレートは外部機器で変更します。クロックレートのLEDで受信しているクロックレートを表示し、LOCK LEDで外部機器とAudioFuse 8Preが同期していることを表示します。

ですが、AudioFuse 8PreがUSBモードで、SYNCをADATまたはWORDに切り替えた場合、内部クロックと外部クロックのレートが異なる場合、すぐに外部クロックに切り替わりません。詳しくは[同期チャプター](#) [p.35]をご覧ください。

2.1.4.2. シンクセレクターボタン

SYNCボタンでAudioFuse 8Preが使用するクロックソースを3種類から選択します。外部同期ソースのうち、接続していないものがある場合は、SYNCボタンを押してもそのソースをスキップし、選択できません。

- **INT** : AudioFuse 8Preの内部クロック
- **WORD** : WCLOCK INコネクターからのワードクロック
- **ADAT** : ADAT IN 1コネクターからのクロック

LOCK LEDは、AudioFuse 8Preと外部クロックが同期した時に点灯します。



♪: ADATをクロックソースにする場合、ADAT IN 2ではなく必ずADAT IN 1に接続してください。

CLOCKとSYNC LEDの点灯の組み合わせと、それぞれでの動作につきましては、[同期チャプター \[p.35\]](#)の表をご覧ください。

2.1.4.3. Arturiaボタン

フロントパネルの右上コーナー部分にはArturiaロゴのボタンがあります。これを"Arturiaボタン"と呼びます。このボタンでAudioFuse 8Preの電源オン/オフを切り替えます。約5秒長押しするとシャットダウンし、短く1回押しと電源オンになります。

このボタンにはもう1つの機能があります：AudioFuse 8Preがコンピュータと接続している場合、このボタンを短く押しとコンピュータ上でAudioFuse Control Centerソフトウェアが開いたり閉じたりします。

2.1.4.4. モードセレクターボタン

フロントパネル右下コーナー部分にはAudioFuse 8Preの2つのメインの動作モード (USBとADAT)を切り替えるボタンがあります。どちらのモードでもフロントパネルの各コントロールの機能は同じです。異なるのはAudioFuse 8Preを通るオーディオのソースだけです。

詳しくは[USBとADATモード \[p.24\]](#)をご覧ください。

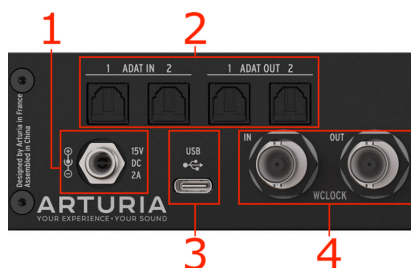
2.2. リアパネル

ここがAudioFuse 8Preと様々な機器とを接続し、その威力を発揮する場所です。スーパーカーのボンネットを開けて中を覗き込むような、あるいはディズニーランドの色々なアトラクションの舞台裏に踏み入れるような、そんな気持ちになるのが、このリアパネルです。



リアパネルの各セクションを左から順にご紹介します。

2.2.1. ADAT, ワードクロック, USB, 電源



#	コネクター名
1	電源
2	ADATインプットとアウトプット
3	USBタイプC
4	ワードクロックインプットとアウトプット

2.2.1.1. 電源コネクター

電源アダプターを接続します。

i 1: 電源アダプターは、必ずArturia製のもの (DC15V, 2A, センタープラス) をご使用ください。

2.2.1.2. ADATインプットとアウトプット


ここにADAT"ライトパイプ"ケーブル (別名デジタルオプティカルケーブル) を接続します。端子形状がトスリンク (TOSLINK) のケーブルをご使用ください。ケーブルの一方の端をAudioFuse 8Preに、もう一方の端をADAT対応機器に接続します (アウトからイン、インからアウト)。AudioFuse 8PreとAudioFuse や、2台のAudioFuse 8Pre、あるいは他のオーディオ機器とADATプロトコルで接続し、デジタルオーディオのやり取りをすることも可能です。

ですが最高にクールなのは、トスリンクの端子をIN/OUTで2セット装備していますので、クロックレート (44.1kHz - 96kHz) に関係なく常に8チャンネル分のデジタルインとデジタルアウトが使える点です。

クロックレートの設定によってはADATコネクタを2セット使用します。

クロックレート	使用するADATコネクタ	データ
44.1k or 48k	ADAT In / Out 1	トラック 1-8
88.2k or 96k	ADAT In / Out 1 and ADAT In / Out 2	トラック 1-4 (ADAT In / Out 1) トラック 5-8 (ADAT In / Out 2)

外部ADAT対応機器がマスタークロックの場合、その機器からAudioFuse 8PreのADAT IN 1に接続してください。ADATクロックソースはADAT IN 1でのみ受信します。ADAT IN 2では受信できませんのでご注意ください。


 各ADATアウトはインと接続している同じ機器に接続することが重要です (1->1, 2->2)。これにより信号の流れが複雑にならず、各機器とトラックの関係で混乱することを防止できます。

2.2.1.3. USBタイプCコネクタ

USBコネクタはAudioFuse 8PreとAFCCとの接続のみに使用します。電源は供給されません。USBコネクタを使用する際は、付属の電源アダプターをご使用ください。

AudioFuse 8Preをコンピュータに接続すると、WindowsでもmacOSでも即座にオーディオインプット/アウトプットデバイスとして使用できます。但しWindowsの場合、AudioFuse 8Preの各種機能を使用するにはArturia USB Audio Driverをインストール [p.22] する必要があります。

macOSでもWindowsでも、AudioFuse 8Pre本体のフロントパネルからではアクセスできない機能もありますので、AFCCをインストール [p.19] することをお勧めします。

 AudioFuse Control Centerソフトウェアは、macOSでもWindowsでもご使用になれます。

1台のコンピュータで複数のUSBオーディオ機器を使用する場合、次のようなポイントが重要です：

- 可能な場合は常に、AudioFuse 8Preとコンピュータをダイレクトに接続してください。
- AudioFuse 8Preとの接続にUSBハブを使用することも可能ですが、**推奨しません**。チャンネル認識で問題が生じることがあります。
- 可能な場合は、同一のマスターワードクロックソースを全機器で使用してください。AudioFuse 8Preの同期機能は強固で、お使いのシステムのワードクロックマスターとしても使用できます。



♪: 使用目的に応じて、2台のAudioFuse 8Preを同一のコンピュータに接続する際、2種類の方法を採れます。詳細は、[USBとADATモードチャプター \[p.27\]](#)の2台のAudioFuse 8Preをチェーン接続にする [\[p.24\]](#)をご覧ください。

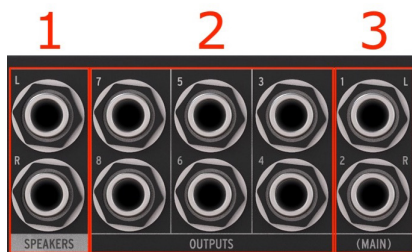
2.2.1.4. ワードクロックのインプットとアウトプット

AudioFuse 8Preはワードクロックのマスターソースとして使用できるほか、他の機器からのワードクロックにスレーブ動作も可能です。ワードクロックによる同期は、システム上の関連機器間でデジタルオーディオをサンプル単位での正確さで同期させることができ、レコーディングスタジオでよく使われる手法です。

AudioFuse Control Centerソフトウェアでは、必要に応じてワードクロックのインピーダンスを75ΩまたはHi-Zに切り替えることができます。ワードクロックの2種類のインピーダンス等の設定につきましては、[同期チャプター \[p.37\]](#)をご覧ください。

AFCCでは、AudioFuse 8PreのWCLOCK OUTを"パススルー"に設定することもできます。これは、ワードクロックのインプットとアウトプットをダイレクトに接続するもので、AudioFuse 8Preに入力したワードクロックをそのまま他の機器にパスすることができます。複数のスレーブ機器を使った規模の大きなシステム構築をする際に便利です。また、追加でTコネクタを用意する必要も回避できます。

2.2.2. アウトプットの各コネクタ



#	コネクタ名
1	ステレオスピーカーアウトプット
2	アウトプットチャンネル1-8

2.2.2.1. ステレオスピーカーアウトプット

この端子からの出力レベルは、フロントパネルのノブで調節できます。この端子からスタジオモニターに接続し、フロントパネルのスイッチまたはAFCCでMAIN 1-2アウトとキューミックスを切り替えることができます。

2.2.2.2. アウトプットチャンネル1-8

USBモードの場合、AFCCでこの端子の出力を自由にアサインできます。追加のステレオペアに設定したり、モノシンセなど特定のチャンネルの出力や、複数セットのスピーカーに出力してサラウンドミックスを行うこともできます。

2.2.3. インプットチャンネル1-2

基本機能はチャンネル3-8と同じですのでそれにつきましては次のセクション [p.17]でご紹介します。

インプットチャンネル1と2は、フロントパネルにもコネクタがあります。フロントパネルに接続している場合は、自動的にフロントパネルからの信号を入力します。フロントパネルに何も接続されていない場合は、リアパネルに接続した信号を入力します。



2.2.3.1. XLRコンボインプットチャンネル1-2 (リアパネル)

マイクまたは楽器をこのコンボコネクタに接続できます (XLR/フォンどちらも接続できます)。入力ゲイン等はフロントパネルのボタンとノブで適正なレベルに設定します。

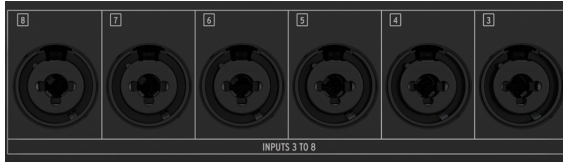
2.2.3.2. インサート1-2

インプットチャンネル3-8との大きな違いの1つが、このインサートセンド/リターン端子です。A/D変換の前段でコンプレッサーなどの外部機器を接続でき、A/D変換の後にコンピュータやADAT対応機器へ信号を送ることができます。

- **SND** : XLRコンボインプットから入力した信号を外部機器へ送る端子です。
- **RET** : 外部機器からのオーディオ信号を入力する端子です。

♪: センド端子はインピーダンスバランス型で、リターンではインピーダンス整合を取っています。接続は、不平衡も平衡も対応しています。最大レベルは+18dBuです。

2.2.4. インプットチャンネル3-8



チャンネル3-8にはインサート端子がありませんが、チャンネル1-2と同様、DiscretePRO®プリアンプならではのクリアなサウンドを誇ります。

マイクまたはラインレベルの楽器をコンポコネクタに接続できます (XLR/フォンどちらも接続できます)。入力ゲインはフロントパネルのボタンとノブで適正なレベルに調節します。

i ！: エレキギターやベース、パッシブピックアップを使用しているなどハイインピーダンス (Hi-Z) での接続が必要な楽器はチャンネル1または2に接続してください (INSTボタンを使用してください)。

2.2.5. バーチャルループバックチャンネル17-18

AudioFuse 8Preには、フロントやリアパネルからはアクセスできない追加チャンネルが2つあります。この2つのチャンネルは、コンピュータやDAW上でインプット17と18として見えます。この2つのチャンネルはUSBレコードストリーム専用として接続されますので、他のアプリケーションの出力をDAWでダイレクトに録音できます。

例えばカラオケトラックを作りたい場合、普段ご使用のプレイバックアプリを利用できます。これにより、ボーカルはDAWの1トラックに、マイナスインは別のステレオトラックへ同時録音できます。

ループバックチャンネルのソースはAudioFuse 8Preのメインミックスまたはキューミックスになります。デフォルト設定では、このチャンネルのインプットには何も選択されていません。AFCCを使用してループバックチャンネルをオンにし、このチャンネルで使用するソースを選択します。

i ！: ループバック機能は、AudioFuse 8PreがUSBモードに入っている場合にのみ使用できます。

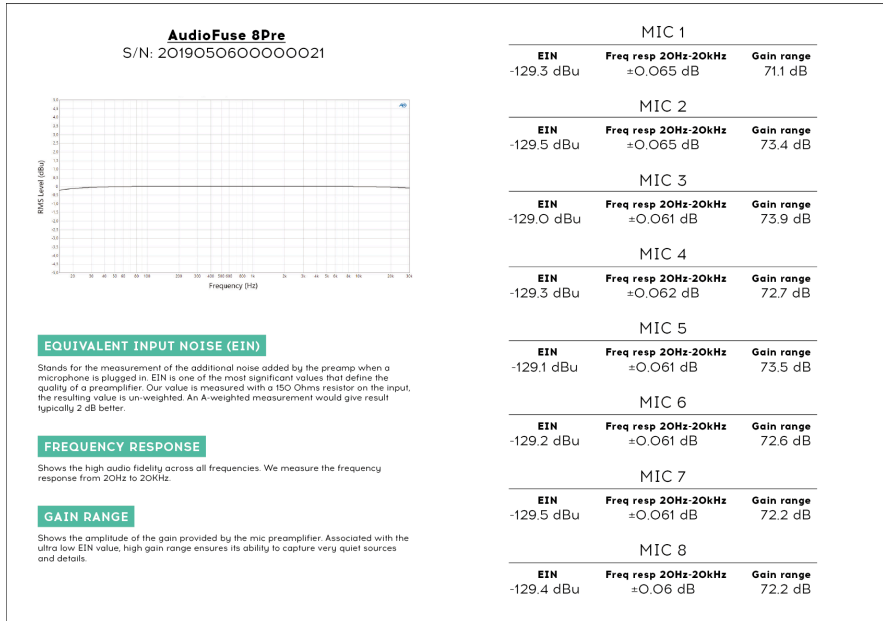
3. レジストレーション

3.1. パッケージ内容

- AudioFuse 8Pre本体
- パワーサプライ+プラグアダプター
- USBケーブル：タイプC – タイプC
- USBケーブル：タイプC – タイプA
- シリアルナンバーとアンロックコードが記載されたレジストレーションカード
- DiscretePro®測定証明書

3.1.1. DiscretePRO®測定証明書

AudioFuse 8Preは、DiscretePRO®テクノロジーを使用したプリアンプを8系統搭載し、最高音質でレコーディングできます。また、その性能を保証するAudio Precision社による測定証明書も添付されています。



測定証明書の詳細は、レジストレーション完了後にご覧になれます。

3.1.2. AudioFuse 8Preのレジストレーション (製品登録)

AudioFuse Control Centerソフトウェアなどを使用するには、www.arturia.com/register でAudioFuse 8Preの製品登録をする必要があります。製品登録にはレジストレーションカードが必要になります。

3.1.3. AudioFuse Creative Suite

AudioFuse 8PreにはエフェクトやインストゥルメントのソフトウェアコレクションであるAudioFuse Creative Suiteが付属しています。製品登録が完了すると、この貴重なソフトウェアプラグインのダウンロードとアクティベーションが可能になります。

3.1.4. AudioFuse Control Center

ArturiaウェブサイトからAudioFuse Control Center (AFCC) をダウンロードできます。このソフトウェアは特にWindows PCでAudioFuse 8Preを使用される際に重要となります。AFCCのインストーラーを実行するとWindows用のArturia USB Audio Driverもインストールします。

AFCCは、AudioFuse 8Preの性能をフルに引き出し、本体のフロントパネルからは使用できないパラメーターにアクセスできます。また、AudioFuse 8Preファームウェアの新バージョンのリリースもお知らせします。

! 重要 : <https://www.arturia.com/audiofuse-8pre-start>にアクセスし、AudioFuse 8Preの製品登録をし、最新のファームウェアやユーザーガイドをぜひチェックしてください。また、ここでAudioFuse Creative SuiteやAudioFuse Control Centerソフトウェアのダウンロードもできます。製品登録を行うには、シリアルナンバーとアンロックコードが記載されたレジストレーションカードが必要になります。



4. AUDIOFUSE 8PREをセッティングする

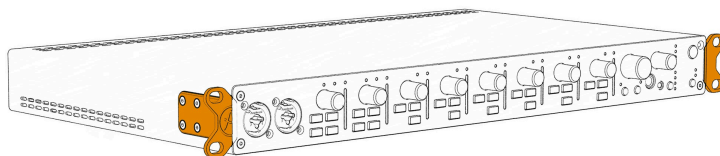
AudioFuse 8Preはラックマウントだけでなく、テーブルトップにもセットできます。ラックイヤーの取付方法でどちらにも対応できます。

4.1. ラックイヤーの取り付け

ラックイヤーは正しい方向でのみネジ穴が合うようになっています。どちらのラックイヤーを本体の左右どちらに取り付けるかのシンプルな覚え方は、Arturiaロゴがあるラックイヤーを本体の左に取り付けます。これは、ラックイヤーが正面を向いている状態 (ラックマウント) でも下を向いている状態 (テーブルトップ) でも同じです。

i ラックイヤーの取り付けは、必ず本体に付属のネジをご使用ください。それ以外のネジの場合、正しく取り付けられない場合があります。

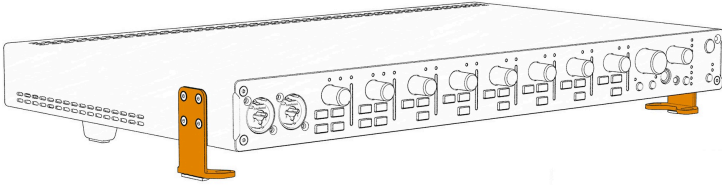
4.1.1. ラックマウント用の取り付け



ラックイヤーが正面を向いた状態

上図のように取り付けます。Arturiaロゴがあるラックイヤーを本体の左側に取り付けます。ラックマウントの場合、付属のラバーパッドとゴム足は不要です。

4.1.2. テーブルトップ用の取り付け



ラックイヤーが下を向き、パッドとゴム足を装着した状態

上図のように取り付けます。Arturiaロゴがあるラックイヤーを本体の左側に取り付けます。実際に取り付ける前に、以下のインストラクションをご覧ください。

1. 半円形のラバーパッドが2個付属されています。ラックイヤーとテーブルの接触面にラバーパッドを使用します。これによりテーブルの天板に傷が付くのを防げます。
2. ラバーパッドの直線部分をラックイヤーの90度の曲げ部分と合わせ、円形部分をラックイヤーのネジ穴のほうに向けてラバーパッドを貼り付けます。
3. ラックイヤーを下向きにし、左右の耳を内側に向けて取り付けます。
4. 付属のゴム足 (2個) は、本体後方の底面に取り付けます。これにより、テーブルトップなどの平面に置いた状態で本体が安定します。
5. ゴム足には小さな樹脂製のガイドピンがあり、本体底面の正しい位置に取り付けられるようになっています。取付位置が決まりましたら、付属のネジで取り付けます。
6. ラックイヤー (本体前面下部)、ゴム足 (本体後方底面) の取り付けが完了すると、AudioFuse 8Pre本体はこの4点で支えられます。
7. これでテーブルトップ用取り付けの完了です。

i 必要に応じて、AudioFuse 8Preの上にラップトップやモニター、別のラックマウント機材を載せることも可能ですが、それによってAudioFuse 8Pre本体に傷が付いたり、積載物の重量によってはAudioFuse 8Pre本体が破損する場合があります。また、載せた際の安定性は保証いたしませんので十分にご注意ください。

4.2. コンピュータの設定

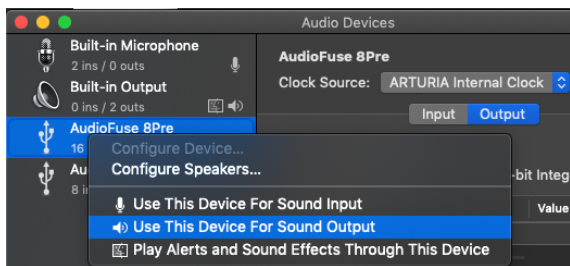
macOSまたはWindowsどちらでご利用の場合も、AudioFuse Control Centerをダウンロードしてインストールしてください。AFCCの各種機能の中には、AudioFuse 8Preファームウェアの新バージョンをお知らせするというものもあります。

4.2.1. macOS

AudioFuse 8Preに付属のパワーサプライを接続し、付属のUSBケーブルでMacと接続してから電源を入れます。電源を入れると、AudioFuse 8PreがAudio MIDI設定に表示されます。

AudioFuse 8Preをデフォルトのオーディオデバイスにするには：

- Audio MIDI設定の左側のパネルからAudioFuse 8Preを選択します。
- 右クリックをして"このサウンド出力装置を使用"を選択します。
- 右クリックをして"このサウンド入力装置を使用"を選択します。

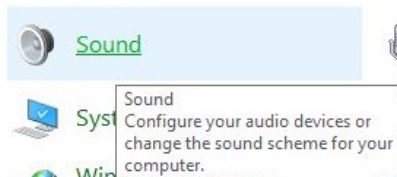


4.2.2. Windows

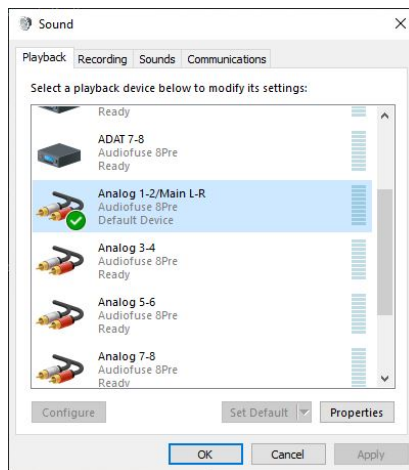
Windows PCでAudioFuse 8Preを使用される場合は、[AudioFuse Control Centerのダウンロードとインストール \[p.18\]](#)が重要となります。AFCCをインストールすると、Arturia USB Audioドライバーもお使いのPCにインストールされます。前述しました通り、AFCCにはAudioFuse 8Preファームウェアの新バージョンをお知らせする機能もあります。

AFCCのダウンロード後、アイコンをダブルクリックするとインストールが始まります。インストール完了後、PCとAudioFuse 8Preが接続している場合、AudioFuse 8Preはオーディオデバイスのリストに表示されます。

AudioFuse 8Preをデフォルトのオーディオデバイスとして使用したい場合は、コントロールパネルを開き、"サウンド"をクリックします。



AudioFuse 8Preが規定のデバイスに選択されていない場合は、"規定値に設定"をクリックします。



5. USBとADATモード

AudioFuse 8Preには2種類の動作モード、USBとADATモードがあります。フロントパネルのボタンでモードを切り替えることができ、1台のAudioFuse 8Preで次のような2種類の使い方ができます：

- 16イン/20アウトのUSBオーディオインターフェイス
- プリアンプ×8、アナログアウト×10の双方向ADATエクスペンダー

このチャプターでは各モードの詳細をご紹介します。

5.1. 各モードの簡単な対比

最初は簡単なまとめから始めて、そこから詳細に入っていきます。

5.1.1. ADATモードでは

- すべてのアナログ入力からの信号がADAT出力へ送られます。
- すべてのADAT入力からの信号がアナログ出力へ送られます。
- スピーカー/ヘッドフォン出力からはADAT入力1-2または内部キューミキサーからの信号を出力できます。
- コンピュータのオーディオデバイスリストにAudioFuse 8Preが表示されません。USBモード動作時でのみ表示されます。
- ADATモード動作時でもAFCCが使用できます。AudioFuse 8PreとコンピュータをUSBケーブルで接続するだけで使用できます。

5.1.2. USBモードでは

- すべてのアナログ入力からの信号はUSB入力チャンネル1-8へ送られます。
- すべてのADATインプットからの信号はUSB入力チャンネル9-16へ送られます。
- USB出力チャンネル1-8からの信号はアナログ出力1-8へ送られます。
- USB出力チャンネル9-16からの信号はADAT出力1-8へ送られます。注意：出力チャンネルの振り分けはAFCCで変更できます。
- USB入力チャンネル17-18はメイン1-2またはキューミックス用のバーチャルループバック入力として使用できます。
- スピーカー/ヘッドフォン出力からはUSB出力1-2または内部キューミキサーからの信号を出力できます。



♪: クロックレートが88.2kと96kの場合、ADAT入力/出力チャンネルはADATポート1と2に分割されます。

5.2. モードの切り替え方

AudioFuse 8Preをコンピュータに接続している場合、AFCCでUSBとADATのモード切り替えができます。

AudioFuse 8Preをコンピュータに接続していない場合は、次の手順でモードを切り替えることができます：

- MODEボタンを約3秒長押しします。
- その時に動作しているモードのLEDが点滅を始めます。
- 切り替えたいほうのモードのLEDが点灯すると、AudioFuse 8Preがそのモードに切り替ります。

i：上記の操作はAudioFuse 8Preをコンピュータに接続する必要はありません。例えば、AFCCでAudioFuse 8Preをマルチチャンネルミックスの設定に設定し、コンピュータから取り外してAudioFuse 8Preだけを持ち歩くということもできます。また、コンピュータと併用せず、AudioFuse 8PreをスタンドアローンのADATコンバーターとして使用することも可能です。！：AudioFuse 8PreがUSB経由でコンピュータに接続されていて、オーディオ出力がコンピュータのオーディオ設定に表示されない場合は、MODEボタンがUSBモードになっているかどうかをチェックしてください。

5.3. 各モードとクロックレートのオーディオルーターティング

5.3.1. チャンネルルーターティング (ADATモード)

5.3.1.1. 44.1 / 48kHzの場合

入力チャンネル	出力チャンネル
アナログ入力チャンネル 1-8 -->	ADAT出力 #1, チャンネル 1-8
ADAT入力 #1, チャンネル 1-8 -->	アナログ出力チャンネル 1-8

5.3.1.2. 88.2 / 96kHzの場合

入力チャンネル	出力チャンネル
アナログ入力チャンネル 1-4 -->	ADAT出力 #1, チャンネル 1-4
アナログ入力チャンネル 5-8 -->	ADAT出力 #2, チャンネル 5-8
ADAT入力 #1, チャンネル 1-4 -->	アナログ出力チャンネル 1-4
ADAT入力 #2, チャンネル 5-8 -->	アナログ出力チャンネル 5-8

i：AudioFuse 8Preを1台のみで使用している場合、ADATモードではコンピュータからのオーディオ信号をモニターすることはできません。AudioFuse 8Preを2台カスケードにした場合、1台目のAudioFuse 8PreをUSBモードにしておくことで、DAWからのプレイバックや音楽アプリなどからの信号をUSBオーディオのソースとして使用できます。

5.3.2. チャンネルルーティング (USBモード)

5.3.2.1. 44.1 / 48kHzの場合

入力チャンネル	USB録音チャンネル
アナログ入力チャンネル 1-8 -->	USBチャンネル 1-8
ADAT入力 #1, チャンネル 1-8 -->	USBチャンネル 9-16
ループバック入力 17-18 -->	USBチャンネル 17-18

USB再生チャンネル	AudioFuse 8Pre再生チャンネル
USBチャンネル 1-8 -->	アナログ出力チャンネル 1-8
USBチャンネル 9-16 -->	ADAT出力 #1, チャンネル 1-8

5.3.2.2. 88.2 / 96kHzの場合

入力チャンネル	USB録音チャンネル
アナログ入力チャンネル 1-8 -->	USBチャンネル 1-8
ADAT入力 #1, チャンネル 1-4 -->	USBチャンネル 9-12
ADAT入力 #2, チャンネル 5-8 -->	USBチャンネル 13-16
ループバック入力 17-18 -->	USBチャンネル 17-18

USB再生チャンネル	AudioFuse 8Pre再生チャンネル
USBチャンネル 1-8 -->	アナログ出力チャンネル 1-8
USBチャンネル 9-12 -->	ADAT出力 #1, チャンネル 1-4
USBチャンネル 13-16 -->	ADAT出力 #2, チャンネル 5-8



ℹ: USBモードの場合、出力チャンネルのルーティングをAFCCで変更できます。

5.4. その他の情報

5.4.1. コンピュータと併用している場合

1. USBケーブルでコンピュータと接続している場合、どちらのモードでもAFCCでAudioFuse 8Preをコントロールできます。例えば、USB接続をしても**強制的にADATモードに切り替える** [p.25]こともできます。この場合、ADATのオーディオ信号を抜いっつ、AFCCでAudioFuse 8Preのコントロールができます。
2. ADATモードに入っている場合、AudioFuse 8Preはコンピュータからオーディオデバイスとしてみえない状態になります。コンピュータのオーディオデバイスとして表示されるのはUSBモードに入っている場合のみです。
3. AudioFuse 8PreがUSBモードで動作している時に、何らかの理由（コンピュータがスリープしたなど）でUSB接続が遮断された場合、USB接続が復活（コンピュータがスリープから復帰するなど）するまでの間、USBモードLEDが点滅します。その間AudioFuse 8PreはUSBモードに入ったままの状態となり、ADAT入力から信号が入っても自動的にADATモードに切り替わることはありません。

5.4.2. コンピュータと併用していない場合

1. ADATモードに入っていて、USBケーブルを接続していない状態でMODEボタンを押した場合、ADATモードLEDが点灯したまま、USBモードLEDが3回だけ点滅して消灯します。これは、USBモードが現在使用できないという表示です。
2. ADATモードに入っている状態でUSBケーブルを接続した場合、AudioFuse 8PreはADATモードの状態を維持します。AudioFuse 8PreをUSBモードに切り替えたい場合は、手動でモードを切り替える必要があります（MODEボタンを約3秒長押しします）。

5.5. 2台のAudioFuse 8Preをチェーン接続にする

ADAT端子を使用して2台のAudioFuse 8Preをチェーン接続にすることで、16チャンネルのアナログ入力システム（8ch×2ではなく、1つの16chシステム）を構築することができます。この場合、使用目的に応じて2種類のセッティング方法があります。

5.5.1. メソッド1：ダイレクトUSB接続

この方法の場合、両方のAudioFuse 8PreをAFCCでコントロールできることがメリットです。ほとんどの場合、コンピュータ側からは1台のUSBオーディオインターフェイスとして見えます。

- クロックレートによって接続に必要なオプティカルケーブルの本数が変わります。
 - 44.1k/48k：ADAT In/Out #1を相互接続（ケーブルが2本必要になります）
 - 88.2k/96k：ADAT In/Out #1とADAT In/Out #2を相互接続（ケーブルが4本必要になります）
- 両方のAudioFuse 8PreをUSBケーブルでコンピュータに接続します。
- 片方のAudioFuse 8PreをUSBモードにし、もう一方のAudioFuse 8PreをADATモードにします。モード変更方法は[こちら](#) [p.25]
- ADATモードにセットしたAudioFuse 8PreのSYNCをADATに設定します。

5.5.2. メソッド2：片だけUSB接続

この方法はASIOドライバーを使用しているWindows PCなど、1台のデバイスとして認識しないタイプのOSに最適です。また、この方法は、OSが1台のデバイスとして認識するかどうかに関わらず、2台のAudioFuse 8Preをコンピュータに接続できるため、USBインプットが足りなくて拡充したい場合に適した方法です。

- クロックレートによって接続に必要なオプティカルケーブルの本数が変わります。
 - 44.1k/48k：ADAT In/Out #1を相互接続 (ケーブルが2本必要になります)
 - 88.2k/96k：ADAT In/Out #1とADAT In/Out #2を相互接続 (ケーブルが4本必要になります)
- 1台目のAudioFuse 8PreをUSBケーブルでコンピュータに接続します。
- 2台目のAudioFuse 8Preはコンピュータに接続しません。
- 1台目のAudioFuse 8PreをUSBモードにし、2台目をADATモードにします。 [モード変更方法はこちら \[p.25\]](#)
- 2台目のAudioFuse 8Pre (ADATモード) の同期ソース (SYNCボタンの設定) をADATにセットします。

この方法の場合、ADATチャンネルの信号が1台目のAudioFuse 8Preを通してコンピュータに入った時のみ、2台目のAudioFuse 8PreがAFCCから見えないのがデメリットになります。また、AFCCのデバイス選択 (Device Selection) メニューで2台目のAudioFuse 8Preを選択したり、モード変更などのコントロールもできません。ですが、コンピュータからはこの2台が1台の16チャンネルUSBオーディオインターフェイスとして見えます。

5.5.3. USBチャンネルのアサイン

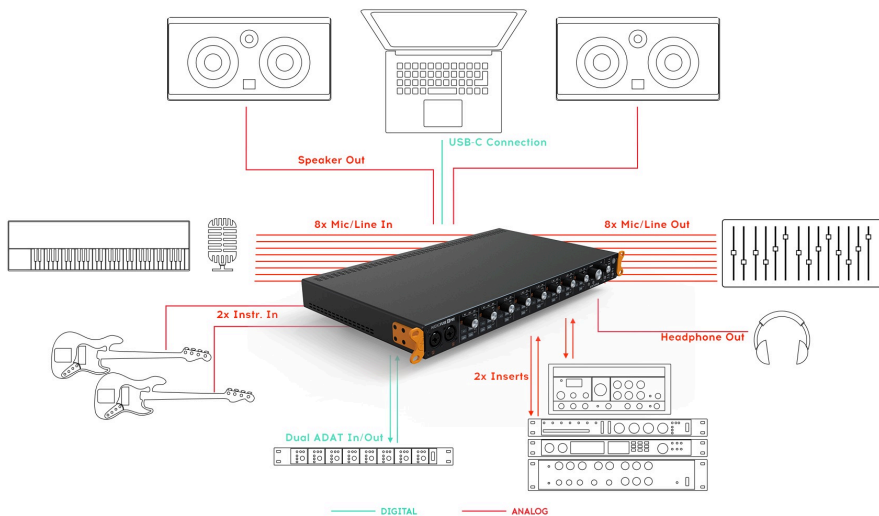
上記いずれかの方法で2台のAudioFuse 8Preをチェーン接続にした場合、2台の入出力チャンネルはコンピュータ側からは次のように見えます：

USBチャンネル	AudioFuse 8Preのチャンネル
USB入力 1-8	1台目 (マスター) のアナログ入力チャンネル 1-8
USB入力 9-16	2台目 (スレーブ) のアナログ入力チャンネル 1-8
USB出力 1-8	1台目 (マスター) のアナログ出力チャンネル 1-8
USB出力 9-16	2台目 (スレーブ) のアナログ出力チャンネル 1-8

6. AUDIOFUSE 8PREを使う

6.1. 接続の概要

下図は、AudioFuse 8Preで可能な接続のすべてを示したものです。合計で16系統の入力、20系統の出力を使用できます。



これらのうち、8系統の入出力はオプティカルケーブルでAudioFuseシリーズ製品などのADAT対応機器と接続できます。

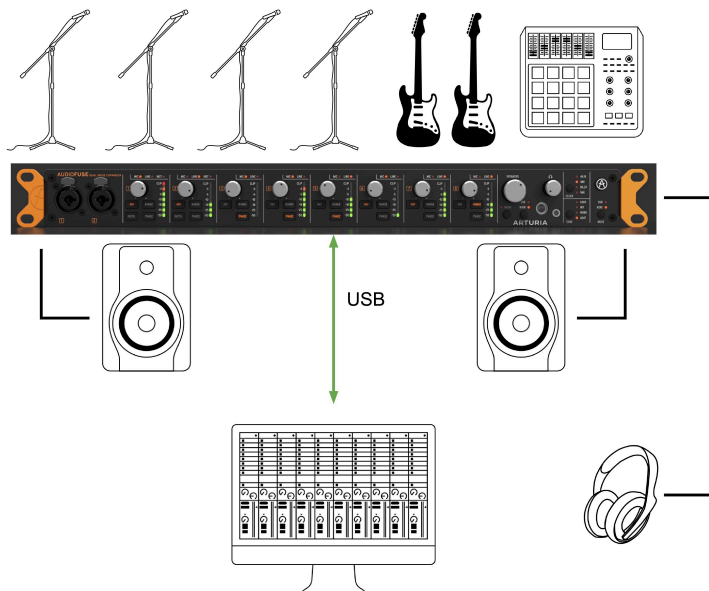
6.2. USBとADATモードについて

次ページ以降の各接続例は、AudioFuse 8PreのUSBまたはADATのどちらかで使用します。この2つのモードの機能上の違いにつきましては、[USBとADATモード \[p.24\]](#)チャプターをご覧ください。

6.3. 接続例

ここからは、AudioFuse 8Preの機能をフルに活用した接続例をいくつかご紹介します。この中には、単体使用のほか他のオーディオインターフェイスと併用するものもあります。

6.3.1. システム例1：バンドのレコーディング



このシステム例では、AudioFuse 8Preはオーディオインターフェイスとして使用します。8系統のアナログ入力、次のように色々な用途に使用できます：

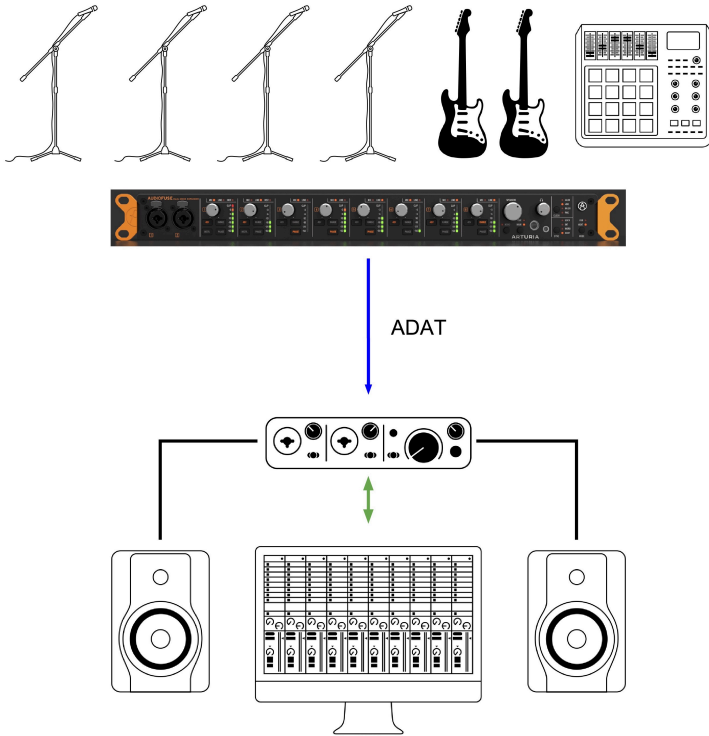
- 4本のボーカルマイク (このうちいくつかは48Vファンタム電源が必要なものもあります)
- ギター2本 (プリアンプ内蔵)
- ドラムマシンのステレオ出力 (ラインレベル)

オーディオ信号は次の3カ所に送られます：

- アナログ入力からの信号はUSB経由でコンピュータへ送られます。
- ステレオスピーカーでミックスダウン (2ミックス) を再生します。
- エンジニアはヘッドフォンでメインまたはキューミックスのモニターができます。

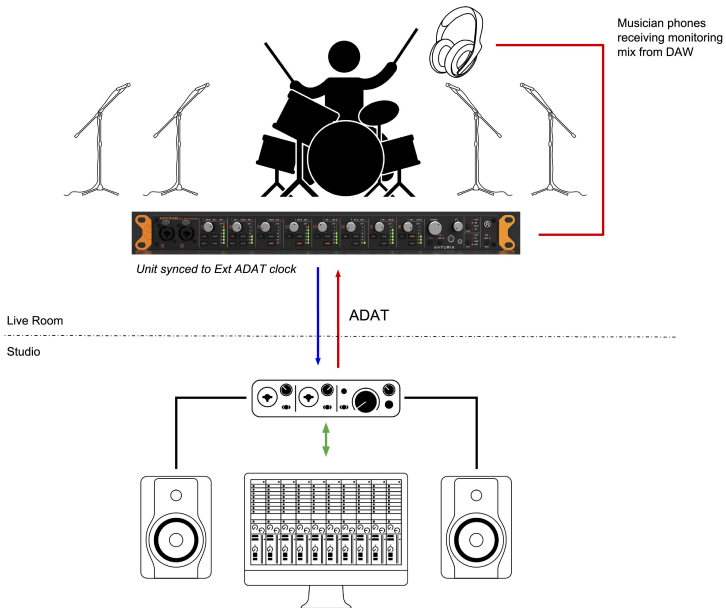
このように、本格的なレコーディングがホームスタジオでも行えます。

6.3.2. システム例2：既存のシステム拡張



2チャンネルのオーディオインターフェイスを使用したホームスタジオにAudioFuse 8Preを導入した例です。AudioFuse 8Preを導入するだけで、ホームスタジオのフレキシビリティやクオリティが何倍も向上します。

6.3.3. システム例3：ドラムのレコーディング

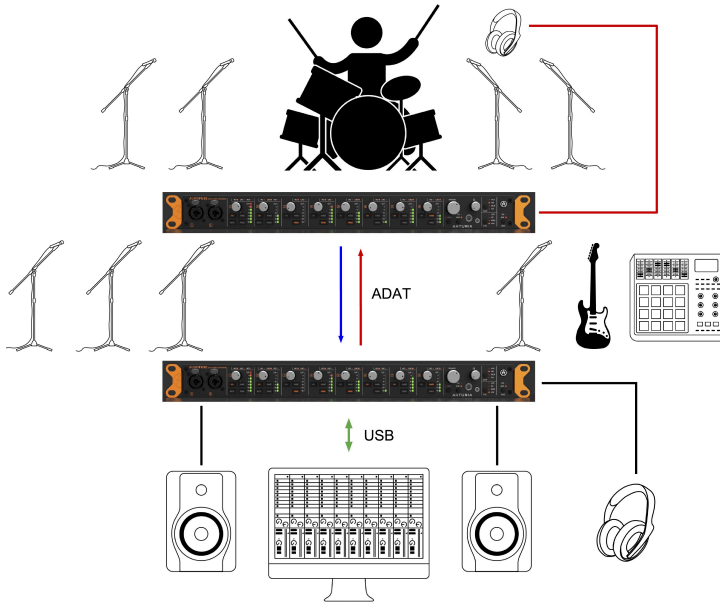


レコーディングスタジオでのシステム例です。エンジニアは片方の部屋（コントロールルーム）に、ミュージシャンは窓を隔てた別の部屋（レコーディングブース）に入っています。AudioFuse 8Preをマルチチャンネルのダイレクトボックス兼高品位A/Dコンバーターとして使用し、同時にドラマーのモニタリングシステムとしても使用します。

10メートルのオプティカルケーブルでマルチチャンネルのオーディオ信号をADATフォーマット対応のUSBオーディオインターフェイスに送り、そこからコントロールルームのコンピュータにオーディオ信号を送ります。AudioFuse 8PreはADATモードで動作し、ドラマーはAudioFuse 8PreのMAIN 1-2の信号をモニターします。この信号は、エンジニアがAudioFuse 8PreのADAT入力のチャンネル1-2に送り返しているオーディオ信号です。詳しくは[ADATモードのチャンネルルーティング \[p.25\]](#)をご覧ください。

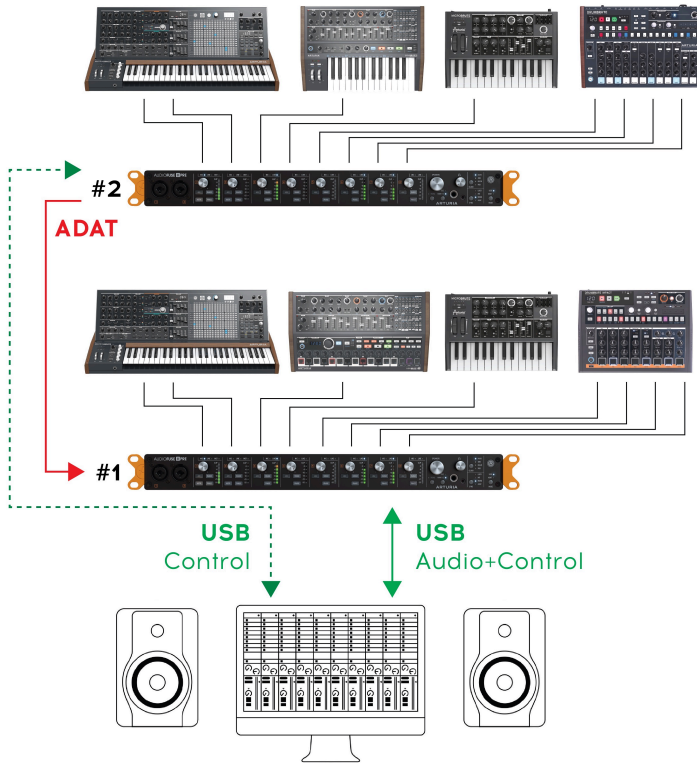
コントロールルームのエンジニアがマスターミックスを聴いている間に、ドラマーが何か別パートを録音したい場合、レコーディングブースにあるAudioFuse 8Preのモニタリング設定をキューミックスに切り替えることもできます。これでドラマーはドラムキットだけの音をヘッドフォンでモニターでき、エンジニアはその録音の間ドラムチャンネルの音をミュートできます。

6.3.4. システム例4：USBケーブル1本で16ch入力



2台のAudioFuse 8Preを2本のオプティカルケーブルで相互接続します。片方のAudioFuse 8PreからUSBケーブルでコンピュータに接続し、コンピュータからは1台の16チャンネル入力デバイスに見えます。ドラマーは手元のAudioFuse 8PreのモニターセクションをMAIN 1-2にセットし、ヘッドフォンでマスターミックスをモニターします。

6.3.5. システム例5：2本のUSBケーブルで16ch入力



ハードウェアシンセ等を多用したシステム例です。2台のAudioFuse 8Preを使用し、それぞれをUSBケーブルで同じコンピュータに接続します。ADATオプティカルケーブル1本で2台のAudioFuse 8Preを接続し、片方をUSBモードに、もう片方をADATモードにします。

各シンセやドラムマシンからのオーディオ信号が、2台のAudioFuse 8Preに入ります。モノアウトもあれば、シンセ等の内蔵エフェクトを使用したステレオアウトのものもあり、ドラムマシンはメインアウトと独立アウトを併用しています。


合計16チャンネル分のライン出力がコンピュータに入り、傑作がこれから生まれようとしています。

少々厚かましいかも知れませんが、刺激的なArturiaシンセとドラムマシンの宣伝です。きっと気に入っていただけるかと思ひますし、2台のAudioFuse 8Preでできることは、もっと魅力的かと思ひます！

7. 同期


クロックソースやサンプルレートの種類、マスター/スレーブの関係はフロントパネルにある2つのセクション (CLOCKとSYNCセクション) のLEDで表示します。2個または3個のLEDが同時に点灯するケースもありますが、それ以外の場合では1個が点滅します。以下の表は、各LEDの状態とクロックの動作状況をまとめたものです：

選択している同期ソース	Lock LED	Sync LED	Clock LED	クロックソース
内部クロック	点灯	INT = 点灯	選択したクロック = 点灯	内部クロック
ワードクロック (入力クロック = 選択したクロック)	点灯	Word = 点灯	選択したクロック = 点灯	ワードクロック
ワードクロック (入力クロック ≠ 選択したクロック)	(消灯)	Word = 点滅	選択したクロック = 点灯	内部クロック
ADAT (入力クロック = 選択したクロック)	点灯	ADAT = 点灯	選択したクロック = 点灯	ADAT Inクロック
ADAT (入力クロック ≠ 選択したクロック)	(消灯)	ADAT = 点滅	選択したクロック = 点灯	内部クロック

 注：ワードクロックまたはADATシンク信号を選択していてもそのクロックを使用しない場合、AudioFuse 8Preは前回使用したクロックレートの内部クロックを使用します。

AudioFuse 8Preが外部クロックソースのスレーブとして動作している場合は、次の条件が適用されます：

- ・ クロックレートはマスタークロックを出力している機器でのみ変更できます。
- ・ 外部クロックに同期している場合、本体のフロントパネルやAFCCでクロックレートの変更はできません。
- ・ 外部クロックに同期しているAudioFuse 8PreのCLOCKボタンを押しても、何も反応しません。

 注：AudioFuse 8Preは外部クロックに同期している (スレーブ動作) 場合でも、常にワードクロックとADAT出力からシンク信号を出力します。

7.1. USBモードでのシンク


7.1.1. マスターの場合 (SYNC = INT)

AudioFuse 8PreがUSBモードの場合、AFCCやコンピュータ (macOSの場合) でのみクロックレートを変更できます。本体のフロントパネルでは変更できません。また、シンク信号は選択したレートでワードクロックとADATアウトから常に出力されます。

7.1.2. スレーブの場合

AudioFuse 8PreがUSBモードで、SYNCボタンをADATまたはWORDに変更しようとした場合、動作は次の3種類に分かれます：

1. 外部機器が接続されていない場合、SYNC LEDはADATやWORDが選択されません（ADATやWORDをスキップします）。
2. 外部クロックレートが内部クロックのレートと一致していない場合、選択したSYNC LEDは点滅し、クロックレートLEDは内部クロックのレートを表示します。SYNC LEDの点滅を止めるには、次の方法のうち、どちらかを行います：
 - 外部クロックレートを内部クロックのレートと合わせる
 - AFCCで内部クロックのレートを外部クロックのレートに合わせる
3. 外部クロックレートが内部クロックレートと一致している場合、内部クロックと外部クロックの切り替えが簡単に行なえます。両機器のシンク状況はLOCK LEDで確認できます。

 注：LOCK LEDが点灯するはずの設定にも関わらず点灯しない場合は、クロックのマスターとAudioFuse 8Preとの接続ケーブルが正しく接続されているかどうかをチェックしてください。また、クロックのマスターが正しく動作しているかもチェックしてください。

7.2. ADATモードでのシンク

7.2.1. マスタークロックの場合 (SYNC = INT)

CLOCKボタンを押すたびにクロックレートのLEDが切り替り、クロックレートを変更したことを表示します。スレーブ側の機器は切り替わったクロックレートで動作しますが、反応の仕方は機器によって違いがある場合があります。詳しくはお使いのスレーブ機器の説明書等をご参照ください。

CLOCKボタンを押した場合、1回目はすぐに設定が変わりますが、2回目に押した時はレートを1倍 (44.1k/48k) から2倍 (88.2k/96k) に切り替えるため、設定が変わるまでに約2秒かかります (2倍から1倍に変更する場合も同様です)。この切り替えの間、AudioFuse 8Preの出力はミュートになります。

7.2.2. スレーブ機器の場合

SYNCの設定がADATまたはWORDの場合、クロックレートの変更はそのマスター機器で行います。マスター機器でクロックレートを変更すると、その時点でAudioFuse 8PreのクロックLEDが切り替り、入力したレートで動作します。同期している状態では、LOCK LEDが点灯します。

設定等条件を満たしていてもLOCK LEDが点灯しない場合は、マスター機器と接続しているケーブルをチェックしてください。また、マスター機器が正しく動作しているのかも併せてチェックしてください。

7.3. ワードクロックの設定

ワードクロック端子があるデジタルオーディオ機器を複数使用する場合、ワードクロックを使用しない手はないかと思いますが。ワードクロックは各機器を同期させるための、長い時を経た実績がある（タイミングだけに！すみません、ダジャレです）手法です。

7.3.1. 2台の同期

AudioFuse 8Pre
(master)
Word Clock Out

AudioFuse 8Pre
(slave)
Sync = WORD
75 Ohm = ON



AudioFuse 8Preをワードクロックのマスターとして使用する場合、常に強固なワードクロックを出力していますので特殊なことをする必要は何もありません。WCLOCK OUTとスレーブ機器をBNCケーブルで接続するだけでOKです。

例えば、2台目のAudioFuse 8Preをスレーブとして使用するとします。この場合、マスター（1台目のAudioFuse 8Pre）からのBNCケーブルを2台目のWCLOCK INに接続します。その後、フロントパネルのボタンまたはAFCCで2台目のシンクモードをWORDに設定し、AFCCでWordclock Impedanceパラメーターを75Ω (75 Ohm) に設定します。

2台のワードクロック対応機器を同期させる場合、AudioFuse 8Preのパススルー機能はオフでもオンでも構いませんが、ワードクロック機器がもう1台増えた場合は、AFCCで設定をいくつか変更する必要がある場合があります（次のセクションをご覧ください）。

7.3.2. 3台の同期

AudioFuse 8Pre
(master)
Word Clock Out

AudioFuse 8Pre
(slave)
Sync = WORD
Hi-Z = ON
Thru = ON

Device 3
(slave)
Sync = Word Clock
75 Ohm = On



3台を同期させる場合もスレーブが増えるだけです。AudioFuse 8Preがマスターの場合はAudioFuse 8Preで特殊な操作は必要ありません。AudioFuse 8PreのWCLOCK OUTから最初のスレーブ機器にBNCケーブルで接続します。

ですが、AudioFuse 8Preをスレーブで使用する場合は、ケースによって次の操作が必要になります：

- シンクモードをWORDにセットします。
- AFCCでWordclock ImpedanceパラメーターをHi-Zにセットします。
- AFCCでパススルー (Pass Thru) をONにセットします。

3台目のワードクロック機器の同期設定でインピーダンスが設定できる場合は75Ωにセットします。同期設定ができない機器の場合は、接続にBNC Tアダプターと75Ωターミネーションが必要となります。

AudioFuse 8Pre以外の機器をワードクロックのマスターにし、AudioFuse 8Preをワードクロック接続の終端にする場合は、上記の設定にします。この場合BNC Tアダプターは不要で、AFCCでWordclock Impedanceパラメーターを75Ωに設定するだけでOKです。

7.3.3. ワードクロックのまとめ


以下の表は、ワードクロックの設定をケース別にまとめたものです。

7.3.3.1. 機器2台の場合の設定

マスター	スレーブ
Word Clock Out	Word Clock In
	Sync = WORD
	インピーダンス = 75Ω

7.3.3.2. 機器3台の場合の設定

マスター	スレーブ1	スレーブ2
Word Clock Out	Word Clock In	
	Word Clock Out (Pass Thru = On) ->	Word Clock In
	Sync = WORD	Sync = WORD
	インピーダンス = Hi-Z	インピーダンス = 75Ω

 注: ワードクロック接続の終端になる機器では、必ず75Ωターミネーションをする必要があります (その機器の内部設定で75Ωにするか、内部設定ができない機器の場合は75ΩのBNCターミネーションを取り付けます)。

8. よくある質問

- 1. チャンネル1-2はフロントとリアで接続できる機器に違いはありますか？**
違いはありません。接続した端子の変更はフロントパネルまたはAFCCで行えますので、フロントでもリアでも端子に合ったケーブルで機器を接続できます。
- 2. マイクの接続を取り外す前にファンタム電源をオフにしたほうが良いですか？**
はい、そうしてください。ファンタム電源をオフに切り替えた時点でAudioFuse 8Preがそのチャンネルを自動的に数秒間だけミュートにし、ケーブルを外す際のポップノイズの発生を防ぎます。これはファンタム電源をオンにする時も同様で、自動的にそのチャンネルが数秒間だけ (マイクの内部電圧が安定するのに十分な時間だけ) ミュートし、ポップノイズの発生を防ぎます。
- 3. リボンマイクにファンタム電源を使えますか？**
注意：リボンマイクの場合、そのメーカーがそのマイクでファンタム電源を使用できると明言していない限り、ファンタム電源を使用しないでください。未確認の状態ではファンタム電源を使用すると、**リボンマイクが破損したり、修理不能の状態になる恐れがあります。**
- 4. USBハブを介してAudioFuse 8Preを使用できますか？**
USBハブを介してAudioFuse 8Preをコンピュータに接続することは可能ですが、AudioFuseなどの内蔵USBハブを介して接続することは、チャンネル認識で問題が生じる恐れがあるため推奨していません。
- 5. AudioFuse 8Preの電源を切る方法を教えてください。**
Arturiaロゴのあるボタンを5秒間長押しするとAudioFuse 8Preの電源がオフになります。
- 6. AudioFuse 8Preをリセットする方法は？**
ファクトリリセットをするには、MONOボタンを押しながら電源を入れてください。
- 7. DAWとコンピュータのオーディオデバイスのリストにAudioFuse 8Preが表示されません。どうしてですか？** AudioFuse 8PreがADATモードになっている可能性があります。この場合、USBモードにすると表示されます。 **注意：**USBモードでもADATモードでも、AFCCでAudioFuse 8Preをコントロールすることができます。

9. 仕様

9.1. 動作環境

 Win 7以降  10.8以降

- 4GB以上のRAM
- Intel i5 またはそれ以上の速度のCPU
- 1GB以上の空きハードディスク容量
- OpenGL 2.0互換のGPU

9.2. オーディオ仕様

ライン/インストゥルメント入力	計測値
入力インピーダンス (ライン)	20k Ω (平衡)、10k Ω (不平衡)
入力インピーダンス (インストゥルメント)	1.1M Ω (不平衡)
周波数特性 20Hz/20kHz	+/- 0.04dB (typical)
最大入力レベル	ライン : +24dBu インストゥルメント : +18dBu
最大入力レンジ	24dB (typical)
パッドモード	オフ、-20dB
ダイナミックレンジ	118dB (A-weighted)
THD+N	107dB (A-weighted)

マイクプリアンプ	計測値
入力インピーダンス	3.4k Ω
周波数特性 20Hz/20kHz	< +/- 0.07dB
最大入力ゲイン	72dB (typical)
最大入力レベル	+11dBu
パッドモード	オフ、-20dB、+10dB
入力換算ノイズ (EIN) @ 72dB gain	-129dBu typical (un-weighted)

インサート	計測値
出力インピーダンス	240Ω (バランス)、120Ω (アンバランス)
入力インピーダンス	20kΩ (バランス) 10kΩ (アンバランス)
最大出力レベル	+18dBu
最大入力レベル	+18dBu
ダイナミックレンジ	リターン：118dB (A-weighted) センド：128dB (A-weighted)
THD+N	リターン：-103dB (A-weighted) センド：-105dB (A-weighted)


スピーカー出力	計測値
出力インピーダンス	120Ω
最大出力レベル	+24dBu
周波数特性 20Hz/20kHz	+/- 0,08dB
ダイナミックレンジ	119dB (A-weighted)
THD+N	-107dB (A-weighted)

ライン出力	計測値
出力インピーダンス	240Ω (バランス)、120Ω (アンバランス)
最大出力レベル	+24dBu
周波数特性 20Hz/20kHz	+/- 0.04dB (typical)
ダイナミックレンジ	115dB (A-weighted)
THD+N	-104dB (A-weighted)

ヘッドフォン出力	計測値
適合ヘッドフォンインピーダンスレンジ	32~250Ω
出力インピーダンス	33Ω
最大出力レベル	+11dBu
ダイナミックレンジ	102dB (A-weighted)
THD+N	-92dB (A-weighted)

9.3. 同期仕様

タイプ	内容
ADAT 入力/出力	対応クロックレート：44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz
ワードクロック	1クロック/1サンプル (選択クロックレート：マスター/スレーブ)

 注：ワードクロック出力は、バススルーモードがオンの場合を除き、常にADAT出力と同期します。この場合、ハードウェア的に直接リンクされた状態になります (Word Clock Out = Word Clock In)。

9.4. オーディオレベルとメーターLEDの関係

LED	オーディオレベル
Signal 1	-50 dBFS
Signal 2	-25 dBFS
Signal 3	-18 dBFS
Signal 4	-10 dBFS
Signal 5	-6 dBFS
Signal 6	-3 dBFS
Clip	-1 dBFS

10. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアートリア製品代金の一部）により、アートリア社はライセンサーとしてお客様（被ライセンサー）にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社（以下アートリア）に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEMソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリア社への書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリア社は、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリア社は、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとしてOEMソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリア社は、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アートリア社は、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

6. 著作権 ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのソフトウェアの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリア社は通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリア社は、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリア社が提供する補償はアートリア社の選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリア社にソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間か30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリア社または販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行ったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリア社は、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害(業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む)について、アートリア社が当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。

11. 規制関連情報

FCC規制情報 (USA)

重要な注意：本製品を改造しないでください。

本製品は、本マニュアルに記載の条件を満たした場合にのみ、FCC規則に準拠します。本製品の使用に際して、FCC規則に反する改造または変更を本製品に行うことは、Arturia社および輸入代理店は一切承認いたしません。

重要： 本製品をアクセサリ等関連製品やその他の機器に接続する場合は、高品質のシールドケーブルをご使用ください。また、本製品にケーブル類が付属している場合は、その用途に於いて必ずそれをご使用ください。本製品の設置は、ユーザー・マニュアル等に記載されている内容に従って行ってください。それ以外の方法等で本製品をアメリカ合衆国内で使用する場合は、使用者の権限が無効になる場合があります。

注意： 本製品は、FCC規則第15章に従ってクラスBデジタル機器の規制値に適合していることが試験により確認されています。この各種規制値は、本製品を一般家庭で使用する際に生じる有害な障害に対して合理的な保護となるよう策定されています。本製品は、無線周波数帯域のエネルギーを発生し、使用し、放射することがあります。また、本製品のユーザーズ・マニュアルに従わずに本製品を設置した場合は、他の電子機器に有害な干渉を及ぼす原因となる場合があります。本製品の電源をオンにしたりオフにしたりすることで、本製品がそのような有害な干渉を及ぼす原因であると確認された場合は、次の対処法を行ってください：

- 本製品または干渉の影響を受けている機器の設置位置を変更する。
- 本製品と干渉の影響を受けている機器のコンセントを別の系統に分ける、またはACラインフィルターを使用する。
- ラジオやテレビが干渉を受けている場合は、それらの位置やアンテナの向きを変更する。アンテナの引込み線が300Ωのリボンフィーダー線だった場合は、引込み線を同軸ケーブルに変更する。
- これらの対処法が効果的でなかった場合は、本製品を購入された販売店やメーカーまたは輸入代理店にご相談ください。

なお、上記の記載内容は、アメリカ合衆国にディストリビュートされた製品にのみ適用されます。

カナダ

注意： 本製品はカナダ国内の干渉機器基準で要求されるすべての規制に適合したクラスB デジタル機器です。

AVIS: Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

ヨーロッパ



本製品は、指令89/336/EECの要求基準に適合しています。

本製品が静電気放電の影響により適切に動作しない場合は、本製品の電源を入れ直してください。